

港区立麻布小学校
令和5年度 授業改善推進プラン

| | 育成を目指す資質・能力 | 全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|--|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉に着目して、正確に読んだり、聞いたりする力 ・目的意識をもって、話したり書いたりする力 ・正しい字形や筆順で漢字を書く力 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容の中心を捉えながら、聞いたり、読んだりすることが不十分である。 ・語彙数の少なさや、内容を捉える力が弱いため、自分の考えもち、分かりやすく具体的に表現することが苦手である。 ・収集した知識や情報と関連付けて自分の考えをまとめる力が弱い。 ・学年相当の片仮名、漢字を読む、書く、正しい筆順や字形、「とめ・はね・はらい」などを意識して書くことが苦手である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の範読や、本の読み聞かせなどを聞く経験を増やす。 ・基本の文型や話型を示し、「始め・中・終わり」を意識した文を書かせるようにする。 ・説明文や物語文を要約したり、日常的に作文や日記を書いたりする、書く活動を取り入れる。 ・相手意識を持ち字形を整えて書くことを、新出漢字の指導や書字活動の際に意識させるよう指導する。 ・定期的な漢字テストを行ったり、文章を書く際に既習の漢字を用いることを指導したりして、定着を図る。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|--|---|
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことや考えたことをまとめる力 ・社会の学習と日常生活とを結びつけて考える力 ・地図、統計などの資料を読み取る力 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図の見方や資料の読み取りなどを苦手とする傾向にあり、それらを基に思考する際につまづきが見られる。 ・学習内容を日常生活に結びつけて考えることを苦手である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分の言葉でまとめる場面を授業内で増やす。 ・普段の生活の中で、学習内容と関連する場面が出てきた際には都度声がけをする。 ・教師が、毎時間ごとの主となる資料を厳選し、読み方を丁寧に教え、資料の読み取り能力を高めていくよう指導する。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|--|--|
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ・正しく計算、測定、作図する力 ・問題場面を図や表などに表し、根拠を明確にして立式することができる力。それらを基に、考えたことを表現する力 ・問題を的確に捉え、数学的に考えて答えを導き出そうとする力 ・既習事項を基に、自力解 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査より、領域別では「図形」、観点別では「思考・判断・表現」、形式別では「記述式」の平均正答率が低い。 ・TOFASより、計算領域別では、3年生はかけ算、4年生はひき算、5年生は小数の加減や計算のきまり、6年生も小数の加減の平均正答率が低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ぐんぐんタイムや宿題を活用して反復練習を行い、引き算、かけ算、小数などの基本的な計算力の向上を図る。定規や分度器、コンパス等を使う機会を増やし、図形の理解につなげる。ケアレスミスを防ぐため、答えの確かめを行うよう、日常的に指導する。 ・自力解決の時間には、個別指導や学び合いの時間を取り入れ、自力で解決する手立てを示し、考えを深めたり、記述式で表現したりする機会を増やす。 ・習熟度別のクラスの実態に合わせて、数直線や |

| | | | |
|--|------|--|---|
| | 決する力 | | 図、絵を用いたり、問題文に下線を引いて立式するために必要な情報を掲示したりして、視覚的に自力で考えることができるように、問題提示の仕方を工夫する。 |
|--|------|--|---|

| | | | |
|----|--|---|--|
| 理科 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や経験を根拠にしながら学習問題に対する仮説を立てる力 ・どのような実験をすれば仮説を立証することができるかを進んで考える力 ・様々な事象について追及する中で、差異点や共通点を基に、問題を見出す力 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から考察し、結論を導き出す力 ・学習問題に対する仮説を立てる時に具体的な根拠を挙げて考える力が乏しい。 ・実験や観察の結果から、考察したり疑問を見付けて調べようとしていたりすることが、まだできていない児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入の際に、前学年までの学習内容や生活経験を想起させてから、仮説を考える時間を設ける。 ・どのような実験が必要か手順や必要な道具などを全員で考える。 ・予想で「自分の考えの根拠」を考えたり、結果から「何が言えるのか」を考察したりする時間を設定する。 ・本単元で学習したことがこれからの生活でどのように生かせるか、生活にどう関係しているかを考える時間を設ける。 |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 生活 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・季節に見られる自然のものや行事・変化について意図的・計画的に気付く力 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然等の変化について意識できていないため、気付くことができていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事や自然、変化に自然と気付けるよう、それぞれの季節を ICT で記録として写真を撮影・保存し、共有する技能を高める活動を取り入れる。 ・町探検で地域の方々との関わりを広げられるように、地域の方々と連携する。 |

| | | | |
|----|---|--|---|
| 音楽 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・友達などに関わり合いながら互いの表現を高め合う力 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用して、表現をより豊かにしていくことや友達と関わり合いながら表現を創り上げていくに課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱・器楽)においては、個別指導を行い技能面の差異が広がらないようにしていくとともに、子供同士の教え合う活動や音楽表現を工夫する活動を数多く行う。 ・様々な学習形態で言語活動を多く取り入れる。(ワークシート、ペア学習、グループ学習等) ・音楽づくりなどで既習事項を活用した表現の工夫などを行う。 |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 図工 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりし、自分の表 | <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について興味をもちにくい児童や、自分の表現について自信がもてない児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の時間の設け方を工夫する。導入時に題材に関連した美術作品を提示するなど、制作途中の児童の表現から拾い上げ、造形的な視点に沿った価値付けを工夫したり、形や色の見方を変えて思いついたことから表現する流れを工夫したりす |

| | | | |
|--|--------|--|----|
| | 現に生かす力 | | る。 |
|--|--------|--|----|

| | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|--|--|
| 家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の衣食住について必要な基礎的な理解、技能 ・自分の生活と関連付けて、生活をよりよくするための方法を考える力 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルス感染予防の期間等もあり、調理の基礎的な技能を身に付いていない。 ・生活様式の多様化により、子供たちの季節感などに対する感じ方の差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・裁縫や調理などの実践を通して、基本的な知識や技能を身に付けられるように実習を行う。 ・担任と講師の二人体制で行い、技能を身に付けさせる。 ・興味をもって取り組める課題を設定し、生活をより豊かにする方法を考えさせる。 ・家庭と連携し、調理等に触れる機会を増やしたり、実習中に細かく指導できたりする体制を整える。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 新体力テスト、学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|--|--|
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・「すばやさ」「動きを持続する能力」「タイミングの良さ」「力強さ」「体の柔らかさ」それぞれ基本的な力 ・運動遊びの行い方を工夫し、他者に伝える力 ・きまりを守ったり、安全に気を付けたりして、誰とでも仲良く運動する力 ・基本的な動きや技能を身に付ける力 ・学習を見通し、自己の課題を見ついたり、解決に向けて思考・判断したりする力 友達同士で協力し合うことで、技術の向上を楽しんだり、勝敗を素直に受け入れられたりする心の成長や、技術の向上等の喜びを通して運動を楽しんで行うことができる態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果、「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」が低い傾向にある。 ・ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一步前に踏み出して投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げることができるようにする必要がある。 ・なわとび、持久走など粘り強く続けていく運動を取り入れていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業開始5～10分に運動遊びを行う。 ・単元の第1時や、毎時間の始めにきまりや安全について声かけをする。 ・授業内で体を動かす時間を増やす。 ・児童自身が学習のめあてを立て、振り返りを確実に行う。 ・様々な運動遊びを体育の時間に取り入れ、体を動かす楽しさを実感できるようにする。 ・各種の運動の行い方について、児童をモデルとして紹介し、運動の時間を多く確保できるようにする。 ・各時間、学習を進める上での安全指導を必ず取り入れるようにする。 ・準備運動を必ず行い、学習を進めるうえでのルールや配慮事項を確認する。 ・技能を身に付けるために、iPad を活用して自分の動きを撮影し、課題を見付けたり、習得をするためにどうすればよいか考えたりする時間を設ける。 ・自己を振り返り、次の学習に繋げるために、学習カードを活用する。 ・技量だけではなく、人間関係優先のチーム作成など、時々に合わせて柔軟に対応する。 |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 国際 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・英語を使う実践力と、国際コミュニケーションの基礎的な力 ・外国の文化と日本の文化を比較し、それぞれの特徴を理解したうえで尊重する態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語に自信がなく、活動に消極的になってしまう児童がいる。 ・日本の文化については理解しているが、海外の文化についてはあまり知らない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動やゲームなどのアクティビティ取り入れ、すすんで学習に取り組むようにする。 ・活動内容の中で自然に英単語や簡単な文型の発話回数を増やしたり、友達と交流したりする時間を設定したりして、自信をもたせる。意味が分かるように、表情や身振り、イラストや写真などを手がかりになるように指導する。 ・授業の中で、外国の文化を知る機会を増やしていく。 |

| | | | |
|----|--|---|---|
| 道徳 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、実践意欲等の資質・能力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに迫っていることが分かるような発言や自己の振り返りができていない。 ・多面的、多角的な見方ができる児童が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値についての理解を深めるために、教材理解の時間を設け、ねらいが達成できるよう学習課題(導入や教材提示の工夫、発問の精選)について考えさせる。 ・多面的・多角的に考えられるように話し合い活動を取り入れていく。 ・自己を見つめる時間を設けることで、自己の生き方について考えを深められるようにする。自分の考えが思い浮かばない児童については、生活場面を思い出させるような声かけをする。 |

| | | | |
|------|--|--|---|
| 特別活動 | 育成を目指す資質・能力 | 学級活動、学校行事等の課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や社会における生活及び人間関係をよりよくしようとする態度 ・学級の課題について話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりすることができる力 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の時間の確保が難しく、教師主導になってしまうことが多い。 ・課題に対する解決策を話し合うことはできるが、それを実践する力が乏しく、話し合ったことが学級に生かされないことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい集団活動のために、議題を立て、自主的に課題解決できるように話し合う時間を設ける。 ・具体的に出てきた解決策を実践できるように手立てを示す。 ・学級会の記録を児童がいつでも見ることができるよう環境づくりをしたり、話し合いを基に取り組んだことが学校や学級でどのように変化したのかをその都度ふり返りをさせたりすることにより、児童が所属意識をもち楽しく活動することができるようにする。 |

| | | | |
|-----------|--|---|---|
| 総合的な学習の時間 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を発見して、情報収集をし、集めた情報を整理したり分析したりすることを通して、主体的に課題解決する力 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統性のある指導計画が立てられていない。各学年でどのような力を身に付けるか、具体的な姿が見えにくい。 ・インターネットで得た情報をそのまま文章に引用するなど、情報モラルが十分に身に付いていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切な課題、調べ方、まとめ方のモデルを複数提示して、支援していく。 ・移動教室や SDGs等、身近で必然性のあるテーマに取り組むなど、自分事として捉えられるような課題設定を行う。 ・課題解決に向けて、正確な情報収集ができるように、情報モラル等の指導を行う。 ・お互いに調べたものを発表し学び合える場を設定する。また、同じ学年や下級生に発表する機会を設け、相手をイメージした意味のある調べ学習にしていく。 |